

このページは、**直接入力**はできません。そのまま見るか印刷して使ってください!!

おもしろ国語④②



おもしろ国語④で紹介した新美南吉の他にも、日本には、**童話作家**がたくさんいます。中でも、小川未明は、「日本のアンデルセン」とよばれることもあります。ずいぶん前の六年生の国語の教科書には、「野ばら」(おもしろ国語④③で紹介)という作品のっていました。「野ばら」よりもっと有名な作品が、「赤いろうそくと人魚」かもしれません。

赤いろうそくと人魚

小川 未明

人魚は 南の方の海にばかりすんでいるのでは ありません。北の海にもすんでいたのがあります。北方の海の色は、青うぐいでした。ある

とき、岩の上に、女の人魚があがって、あたりの景色をながめながら休んでいました。雲間からもれた月の光がさびしく、波の上を照らしていました。どちらを見てもかぎりない、ものすごい波が、うねうねと動いています。であります。

なんと、さびしい景色だろうと、人魚は思いました。自分たちは、人間とあまり変わっていない。魚や、また底深い海の中にすんでいる、気のあらいい、いろいろなものなどくらべたら、どれほど人間のほうに、心もすがたもにているかれない。それなのに、自分たちは、やはり魚や、けものなどといっしょに、冷たい、暗い、気のめいりそうな海の中にくらさなければならぬというの、どうしたことだろうと思いました。

